

浜づらMAP

HAMABURA MAP



「●」マークの店舗では、EdyやiD(電子マネー)、銀聯(中国版デビットカード)、キャッシュカード(銀行・郵便局)や各種クレジットカードがご利用いただけます。

1

2

3

4

5



眼鏡橋 4-A

中島川に架かる日本最古の石造アーチ橋。寛永11年(1634)、興福寺の住職により架設。名前の由来は、橋の2連アーチと水面に映るその姿が合わさると、メガネに見えることから。眼鏡橋の他にも多くの橋が架かる中島川一帯は風景があり、散歩道としても親しまれる。

土佐商会跡 4-A

幕末の土佐藩が貿易を行った長崎出張所。大砲や弾薬、艦船などを調達するのが目的であった。のちに三菱商会を創始する岩崎弥太郎が主任を勤め、財閥をおこす力を養った。坂本龍馬ひきいる海援隊発祥の地でもある。

浜市アーケード 4-A

1671年、浜町に誕生した長崎を代表する繁華街。「浜んまち」の名で親しまれ、界隈を歩くことを「浜づら」という。浜町の名の由来は、浜辺の開墾にできたことから。船首を思わせるゲートが、貿易港で栄えた長崎の歴史を物語る。

ほてい様(竹谷健寿堂) 4-C

竹谷健寿堂は、浜町で最も老舗の薬局。入口には、ほてい様が微笑む。ほてい様のお腹をさすった手で自分の痛いところをさすと治る、また願いが叶うといわれる。長崎大水害の際、浮力で天井を突き破り無傷だったという強運伝説も持つ。

唐子地藏様 4-D

火事から住民を守った地藏様。建立は享保7年(1722)、慶応4年(1868)、浜町一帯に火の手が広がった際、人々が地藏様に手を合わせると、地藏様の前で火が止まったといわれ、今でも手厚く供養されている。

思案橋跡 5-E

かつて、ここには川が流れ、橋が架かっていた。その名も「思案橋」。花街時代、そこを渡れば日本三大遊廓の一つであった丸山遊廓。遊廓へ遊びに行こうか戻ろうか、思案させる橋だった事から名付けられたとされる。欄干を模した碑が当時を偲ばせる。

孫文先生故縁之地 4-E

辛亥革命を起こし、中華民国を建国した孫文が、長崎を訪れるたびに足を運んだ地。ここには、鈴木天眼が創刊者である「東洋日の出新聞社」があった。鈴木天眼は、孫文の革命運動の支援に尽力した。

大浦けい居宅跡 4-F

幕末の志士たちを援助したといわれる大浦けいは、油商の娘としてここに生まれる。イギリス商人オルトと手を結び、日本茶を海外へ輸出、莫大な富を築くも、煙草取引の連帯保証人となった事をきっかけに破産。危篤の中、茶業振興功労褒賞を贈られ、波瀾の生涯をとじる。

崇福寺 4-H

国宝や文化財の宝庫である唐寺。寛永6年(1629)、長崎に在住していた福建省出身の中国人たちにより創建された。朱色が美しい竜宮門をくぐれば、日本では類をみない、さまざまな中国風の建築様式に出会える。



至 大浦・グラバー園

至 田上・茂木

←至 長崎県庁・大波止